



介護の魅力と価値を高めるのはあなたです

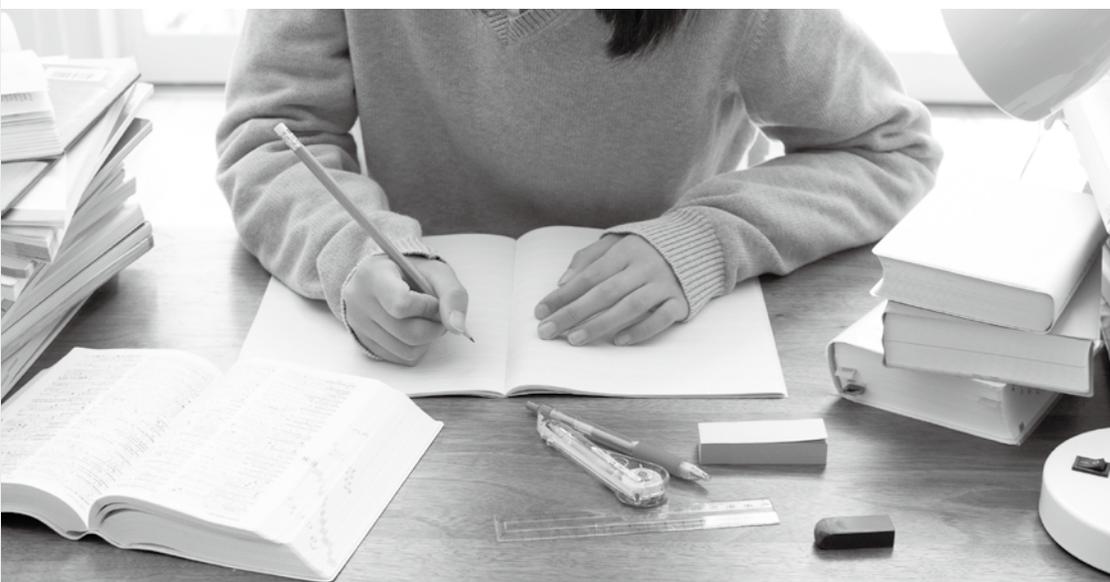
介護福祉経営士 ニュース KFK News



特集

介護福祉士国家試験
パート合格の導入を考える

業務と学習の両立の 負担を軽減し 資格取得の意欲を高める!



CONTENTS

新年のご挨拶 2

特集

介護福祉士国家試験
パート合格の導入を考える
業務と学習の両立の
負担を軽減し
資格取得の意欲を高める!
..... 3

● 推薦図書のご案内
● 今月の「介護ビジョン」
..... 5

● 第9回「介護福祉のみらい」
作文コンクール
入選作品掲載
..... 6

● イベント紹介
..... 8



一般社団法人
日本介護福祉経営人材
教育協会

お問い合わせ先

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会 事務局
☎ 03-3553-2896
<http://www.nkfk.jp>
〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号
S-GATE八丁堀9階
制作:株式会社日本医療企画

新年のご挨拶

～2040年を展望した介護福祉経営士への期待～

皆様、新年あけましておめでとうございます。

2025年は団塊の世代が75歳以上になる節目の年です。医療・福祉のいろいろな政策が2025年を目指して組み立てられてきました。次は、2040年を目指して行くことになります。

介護保険制度ができた2000年の介護総費用は3.6兆円でした。これが2023年には13.6兆円と約4倍となり、2040年には27.6兆円になると見込まれています。保険料も2000年には2,911円でしたが、2023年には6,014円と倍になり、2040年には9,200円になると見込まれています。

介護人材不足も深刻です。介護人材2022年度には215万人でしたが、2040年度には272万人が必要になり、新たに57万人を確保する必要があります。2024年度の介護報酬改定率プラス1.59%は、過去2番目に大きな上げ幅でしたが、他産業も賃上げをしており、不足の解消には程遠い現状です。

こうした環境においては、介護業界も効率化、大規模化、透明化の3つの取り組みをしなければ、生き残りは難しい状況にあります。

まず、効率化ですが、今後の介護現場では、高齢者の活用、ロボット・ICT・AIの活用等介護DXによる生産性の向上、外国人材の確保など多面的な取り組みが必要になってきます。人材不足に対応するには、より少ない人材でも、より質の高いサービスをどうやって提供していくことができるかが求められるでしょう。

次に大規模化ですが、介護事業所は大きな規模のところほど、経営状況に余裕があります。これはスケールメリットにより、購入経費の削減、請求事務や労務管理などの共通化などが進むからです。今や、社会福祉連携推進法人や経営の大規模化・協働化などが当たり前のようになっています。

そして、透明化ですが、財務諸表の報告・公表はもとより、地域に開かれた事業所として、地域包括ケアシステムの中で役割を果たしていくことが求められます。

介護保険創設から25年が経ち、介護業界も成熟してきました。介護サービスの質や生産性による競争は避けられません。厳しい時代だからこそ、介護福祉経営士の役割は、これからますます重要になります。2025年という節目の年を迎え、皆様がそれぞれの介護現場において、なくてはならない存在として、ご活躍されることを強く期待申し上げます。



一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会

代表理事 宮島 俊彦



業務と学習の両立の負担を軽減し 資格取得の意欲を高める！

2024年5月、厚生労働省は「介護福祉士国家試験パート合格の導入に関する検討会」を立ち上げ、介護福祉士国家試験の在り方等の見直しをはじめた。実際、国家試験の受験者は減少傾向にあり、最盛期の5割程度に落ち込もうとしている。2040年に向け、まだまだ介護需要が高まるなか、介護福祉の専門職である介護福祉士をいかに増やしていくかは、国の施策上の問題だけではなく、介護事業所・施設の経営においても重要な課題である。今回は、「介護福祉士国家試験パート合格の導入」について概観する。

働きながら受験する介護職の モチベーションを落とさない方策

1月26日(日)に「第37回(2024年度)介護福祉士国家試験」が実施された。公式の発表は確認できていないが、ここ数年の傾向から、受験者数は8万人前後であると推定できる。合格率は第35回(2022年度)の84.3%、第36回(2023年度)の82.8%と80%を超える高い水準にあるが、一方で合格者数は毎年6万人を前後し、こちらも減少傾向にある。こうした受験者・合格者数が減少傾向にあるなかで、介護福祉士をどのように増やしていくのか、その1つの方策として示されたのが、「介護福祉士国家試験パート合格の導入」である。

そもそも介護福祉士養成校(大学、専門学校等)自体の数も減少しており、入学者数も定員充足率も年々減少、低下している。こうした状況にあって、国家試験の受験者は、その8割以上を実務経験ルートの受験者が占める現実がある。彼らは日々、介護の業務に従事しながら、業務時間外に受験に向けた学習に励んでいる。また、特定技能の外国人にあっては、在留資格「介護」を取得するためには介護福祉士の国家資格の取得が必須であり、同時に日本語学習も必要となることから、仕事と学習をいかに両立させるかが、日々の生活上の大きな課題となっている。

「介護福祉士国家試験パート合格の導入」の第一の目的は、こうした働きながら受験に臨む者たちが、学習意欲を保ちつづけ、資格の取得を諦めない環境を作ることにある。2024年9月24日の報告書では、13試験科目を3つのパートに分割することが提案されている。受験自体は、これまで通り3パートを1日(午前・午後)を通して行うこと、初受験時は全員が3パートを受験することが想定されている。受験者側からは、3パートすべてに注力するのではなく、例えば1つのパートに絞って学習を強化することができる。つまり、1年目は1番目のパートを、2年目は2番目のパートをと3年かけて受験し、各年とも無事に合格できれば国家資格の取得ができる。もちろん3パートをまんべんなく学習し、1年目は3パー

トを全力で受験し、翌年からは不合格であったパートにチャレンジすることもあるだろう。

このようにパート分割することにより、受験に向けた学習の進捗を受験者のペースに合わせ調整することができる。また、これまでの一度不合格となった場合に、翌年、再度リセットし、13科目をすべて学習しなおさなければならないという負担感も軽減され、資格取得の意欲、モチベーションの継続を保つための効果も見込まれる。

パート合格の導入を契機に 事業所・施設内の研修等を見直す

介護報酬制度において、「サービス提供体制強化加算」「介護職員等処遇改善加算」「訪問介護における特定事業所加算」「日常生活継続支援加算」など、介護福祉士にかかわる加算が設けられている。なかでも「介護職員等処遇改善加算」については、2024年度介護報酬改定において「処遇改善加算の一本化」の見直しが行われ、移行期を経て2025年4月からは本格的に新加算の導入となる。

いずれの加算も基本的に介護福祉士の配置(割合)が要件となるが、「介護職員等処遇改善加算」では、「キャリアアップ要件」として、職位、職責、職務内容等に応じた任用の要件や、賃金体系を整備する要件に加えて、介護職員の質の向上に向けた研修の実施等の要件がある。このなかで資格取得のための支援(勤務シフトの調整、休暇の付与、費用の援助等)も定められている。

言うまでもなく、多くの事業所や施設では、加算の取得を目的にするだけでなく、自事業所・施設のサービスの質の向上に向け、所属する介護職員のスキルアップや資格取得の支援が恒常的に行われてきた。すでにそれぞれの現場において、研修の多くのノウハウが積み上がっていると思われるが、「パート合格の導入」を契機に研修や学習支援の方法を再考することも必要となろう。

現時点ではあくまでも案であるが、報告書で示された3分割案(図表1)を見ると、Aは「制度論と介護技術とコミュニ

ケーション技術」、Bは「こころとからだの医学的知識」、Cは「介護過程」という流れのなかで整理された印象がある。知識・スキルのレベルや学習の進度から見ても、A⇒B⇒Cのステップは合理的であるとも言える。そのため国家試験に向けた学習だけでなく、事業所・施設内の研修プログラムとの連携においても工夫の余地が大きいのではないだろうか。

とかく資格取得を優先するばかりに、受験のテクニックや話込み学習に陥りがちであるが、本来の目的は資格の取得ではなく、サービスの質の向上にある。介護福祉士にかかわる加算は、あくまでもサービスの質の向上に付された加算であると認識することが、介護福祉経営には必要なのではないだろうか。

「介護福祉士」のデジタル化から 介護福祉分野の魅力を向上する

介護分野における人材不足は、国や自治体の行政レベルや民間レベルにおいても解消に向けたさまざまな取り組みがなされている。しかしながら、未だ特効薬と言える取り組みや施策が講じられておらず、「介護福祉士」の魅力向上への模索が続いている。

こうしたなか、2024年8月から、「介護福祉士」をはじめ「社会福祉士」「精神保健福祉士」「公認心理士」4つの国家資格を対象にマイナンバーを活用したオンライン・デジタル化が開始された。現状、各種申請書類の提出や変更手続き、資格情報の変更等がオンラインで可能となるほか、自身が保有する資格情報の参照がそのメリットとされている。

これは想像でしかないが、「パート合格の導入」は試験の実施・運用において複雑なオペレーションが必要となる。そのため試験実施機関(公益財団法人社会福祉振興・試験センター)の運用においても同様のデジタル化が活用されるのではないだろうか。デジタル化は、「介護福祉士」という資格の魅力を直接高めるものではないが、社会のメインストリームであるデジタル化の先鞭をつける国家資格となれば、多くの面で波及効果が期待できるだろう。

科学的介護情報システム(LIFE)の推進においても、ケアの質の向上という目的は言うまでもないが、介護福祉分野の魅力向上をさせる1つのツールとして捉えることにより、人材確保に向けた経営的なアプローチの幅を広げることができるとは思わないだろうか。

(KFKニュース編集部)

図表1 分割パターンの考え方(案)

- ・パートの分割にあたっては、学習内容の重なりを考慮して、科目群を同一パートとしている。
- ・受験者の利便性・運営面での負担を考慮し、3分割が適当。

現行				3分割			
	領域	試験科目	出題数		試験科目	領域	出題数
午前の試験	人間と社会	人間の尊厳と自立	2	A	人間の尊厳と自立	人	2
		人間関係とコミュニケーション	4		介護の基本	介	10
		社会の理解	12		社会の理解	人	12
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	12		人間関係とコミュニケーション	人	4
		発達と老化の理解	8		コミュニケーション技術	介	6
		認知症の理解	10		生活支援技術	介	26
		障害の理解	10		小計		60
	医療的ケア		5	B	こころとからだのしくみ	こ	12
	介護	介護の基本	10		発達と老化の理解	こ	8
		コミュニケーション技術	6		認知症の理解	こ	10
生活支援技術		26	障害の理解		こ	10	
介護過程		8	医療的ケア			5	
総合問題		12	小計		45		
午後の試験	介護	介護過程	8	C	介護過程	介	8
		総合問題	12		総合問題		12
		総合問題		12	小計		20
				合計		125	

(参考:11科目群)

- [1] 人間の尊厳と自立、介護の基本
 [2] 人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術
 [3] 社会の理解 [4] 生活支援技術 [5] 介護過程 [6] こころとからだのしくみ
 [7] 発達と老化の理解 [8] 認知症の理解 [9] 障害の理解
 [10] 医療的ケア [11] 総合問題

※領域については下記のように記載している。

人:人間と社会 こ:こころとからだのしくみ 介:介護

出典:「介護福祉士国家試験パート合格の導入の在り方について」令和6年9月24日、介護福祉士国家試験パート合格の導入に関する検討会



推薦図書のご案内

「高齢期」を私たちはどう生きるか

——「老い」と「死」を見据えながら、「社会」とかかわる

著者：小櫻 義明（静岡大学名誉教授）

すべての高齢者に問いかけよう！

老いを嫌い・憎悪する＝嫌老の社会において、
高齢者の存在意義と担うべき役割は何なのか？
今こそ私たちの生き方を考えようではないか！



目次

- はじめに 「高齢者学級」の受講生のみなさんへ
 - 1 「嫌老」と「高齢者学習」
 - 2 「人間の進化」と「高齢者」の役割
 - 3 「現役引退（隠居）」と「生活」への回帰
 - 4 「社会参加」と「健康維持」「終活」
- おわりに 「友愛」を基本理念とする社会をめざして

会員価格

1,584円（本体1,440円＋税10%）

- 定価：1,980円（1,800円＋税10%）
 - A5判／並製／140頁
 - 発刊：2024年5月
 - ISBN978-4-86729-307-2 C3036
- 発行：株式会社日本医療企画

地域介護経営

Care Vision

地域のニーズをすくい上げ
地域から超高齢社会を支えていくための
視点を具体的事例とともに掲載

介護ビジョン

今月の

新春特別 インタビュー

2025年の幕が開けた。
以前から超高齢社会の大きな
節目と言われてきたが、
介護事業者にとって、人材
確保、諸物価高騰等の難題
や、独居高齢者や認知症患者
の増大など、悩みの種が
尽きることはない。
介護サービスを維持・継続
していくために何が必要な
のか、どんな対応を考えて
いるか。
介護の主要関係団体のトップ
の方々に、それぞれの視
点で、本格的な“大介護時
代”に向けた抱負や展望を
語ってもらった。

2025年を乗り越えて 介護サービスを守り抜く！

東 憲太郎（公益社団法人全国老人保健施設協会 会長）
老健の機能を活用すれば
人材不足や認知症などの課題にも対応しやすくなる

大山 知子（公益社団法人全国老人福祉施設協議会 会長）
介護施設は地域福祉の核
地域ニーズに応えることで存在意義を示していくべき

河崎 茂子（公益社団法人日本認知症グループホーム協会 会長）
原点を守りながら
認知症の方や家族のため課題に立ち向かっていく

及川 ゆりこ（公益社団法人日本介護福祉士会 会長）
介護福祉士は高度で尊い仕事
自信と誇りをもっともっと発信してほしい

斉藤 正行（一般社団法人全国介護事業者連盟 理事長）
サービスの質を高めるため
競争原理が正しく働く環境を整える必要がある

スペシャル 企画

彩られた指先が紡ぐ幸せ 福祉ネイルの可能性

2025年2月号
(2025年1月20日発売)



<http://www.jmp.co.jp/carevision/>

- 毎月20日発行
- 定価：1,430円（税込）
- 定期購読料：17,160円（税込）
- ※会員価格は13,728円（税込）

【購入に関するお問い合わせ】
株式会社日本医療企画 Tel:03-3553-2891



vol.2

第9回「介護福祉の未来」作文コンクール 入選作品掲載

高校生の部 最優秀賞

「福祉」について考えた事

いたき こうき
板木 光輝さん(鹿児島城西高等学校 1年)

私には、重度障がいのある姉がいる。640グラムの超未熟児で生まれた姉には、高度難聴が残り、それを抱えながら、彼女は毎日を精一杯生きている。

「福祉」といえば、姉が生活し育ってきた環境そのものが「福祉なのではないか」と思う。姉は生まれながら、医療のサポートが不可欠であった。生後1年3ヶ月で退院し、同時に高度難聴と診断され、障害者手帳が役場で交付された。自宅に戻ってきてからは、県・市の保健所による自宅訪問・育児指導などがあったという。また、支援センター・児童相談所からの紹介で身体的なりハビリにも通う事になった。週2回、PT・OT・STからリハビリを受けており、私も幼かったが一緒に付き添った事を覚えている。

姉は2歳の時ろう学校の幼稚部に通い、教育を受けていた。ここでも、色々な経験を通す中で、手話・口話を4年間かけて習得していった。近所の保育園にも通うようになり、同級生の友達がたくさん出来たようだ。

しかし、ある日突然、

「これ以上、障がいの重い子たちは預かることはできない」

と、市・保育園から言われ、療育センターというところに通う事になったそうだ。

「療育」という言葉が気になり調べてみた。「発達に遅れがみられる子どもたちがサポートを受けながら自立に向けてトレーニングをする場所」のようだ。母が言うには、空を見上げて、「空が青いね」「青い空に雲があるね」というように、健常者が普通の生活で学べる事を、先生方と詳しく感じ取り、五感で色々と学びながら、多くの経験と知識を親子で学んだようだ。姉は、その後も順調に育ったわけではなく、入退院と手術を繰り返しながら幼少期を過ごして行った。

私は三兄弟の末っ子で、姉の上に兄もいる。母は、姉の事で兄には寂しい思いをさせたと言った。私は姉が養護学校小学部1年生の頃に生まれた為、姉の幼少期の事は今回のこの機会に聞き、両親は大変な思いをしたのだと改めてわかった。姉を育てるにあたり、母は福祉についてたくさんの事を調べ、教えてもらい、学んだという。私からすれば、姉が手話で話すこと、姉が病院に通うこと、それは普通の日常であり、特別ではない。しかし、そうではないと思う時もあった。

姉の養護学校に私も付き添いで行ったときだ。自分が通っている学校とはどうも様子が違う。生徒一人に対して先生が一人付き、トイレも一緒に入っている。一緒にお茶も飲んでいる。朝の会から帰りの会まで、その子と手を取り合っていることを楽しそうにしている。私からすれば、姉は大大大サービスを受けているように映った。そんな姉が羨ましくて仕方がなかった。一時期は私も、姉と同じ養護学校に通いたいと思っていた程だ。しかし、そのことを母に話すと、母は悲しい顔をした。姉が障がいを抱えて今を生きているのはどういうことなのか。養護学校の先生方がどうしてこんなにも手厚く熱心なのか、それは養護学校が

「生きていく事を学ぶ場所」

だからだと教えてくれた。生きていくとはどのような事なのか。

「身体が普通に動き、目が見え、音が聞こえ、ご飯が食べられる。このような何気ない日々の生活ができること。それは、奇跡なんだよ。だから、五体満足をあなたは精一杯生きてほしい」

と言ってくれた。

姉は「生きていく」という事を養護学校で12年間学んだ。その間母も姉のために、さらに福祉について学び、障がいのある子を育てる親としてPTA会長や学校を代表して県外まで出向いたりと一生懸命だったようだ。

現在、22歳になった姉は福祉施設で「生活介護」という障害福祉サービスを受けている。これがまた、私からすればとても楽しそうに見える。毎日笑顔で通う姉を見てると、また羨ましい気持ちになるが、その背景には、「親なき後」という深い意味も含まれているということがわかった。親がいなくなった時の姉の将来を考え、そこの事業所に入所ができて、安心安全に生活ができるから利用を決めたのだ。毎日自宅まで送迎してくれて、毎日楽しい行事があって、表では楽しそうに感じるが、必ずしもそう単純なことではないということが分かった。そのような姉と、色々な思いを背負いながら子育てをしてくれている母を思うと、私も将来を考えた時に、家族のために役に立てる職種は何があるだろうと考えるようになった。そして、介護福祉士・社会福祉士という職種を知った。

そして、この春から鹿児島城西高等学校の社会福祉科への入学を決め、片道2時間かけて通学をし、介護福祉士

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会は、将来を担う中学生、高校生が、介護や福祉の大切さを知り、未来に関する考えや思いを発表することを目的に、第9回「介護福祉のみらい」作文コンクールを実施しました。全国より応募総数464編の作品が寄せられ、黒澤貞夫審査委員長（日本生活支援学会会長／浦和大学名誉教授）のもと、厳正な審査を行いました。以下に入選作品を掲載いたします。

の国家資格取得に向けて専門教科を学んでいる。

これから3年間たくさんの仲間とたくさんのことを学び、福祉の心を育てていきたい。そして、障がい分野に特化した介護福祉士になって家族を支えていこうと心に決めている。

高校生の部 優秀賞

模 索

実習に行かせて頂く様になり、三年目。今、私は自分のこれらを含む多くのことを、まさに模索している状態です。

中学生の頃から、ボランティア等で何度も施設を訪れ利用者の方と関わらせて頂きました。その頃は、ただ利用者の方とお話をしたり、一緒にレクリエーションを行う位で、関わらせて頂けることを単純に楽しんでいました。

今は、三年生になり少しずつですが知識も増えて実習でもさらに踏み込んだ所まで関わらせて頂ける様になりました。

ただ、自分はまだ日々の実習内容をこなすことに必死で、もっと学び、見るべきことがあったのではないかと不安に感じています。

実習中のある日、通りかかった廊下で一人の利用者の方がキョロキョロとされていました。その方は不安感が強いいつもそのようになさっていると職員の方からお聞きしていました。その時、その方は私に

「私はここにいてもいいの？」

とお尋ねにられました。私は手を握り、

「大丈夫ですよ」

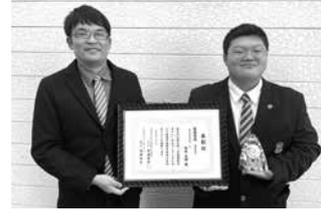
と答えました。その方はぎゅっと強く握り返してこられました。どうすればこの方の不安感を和らげることができるのかと感じつつも、次の入浴介助へと急がなければと焦りました。

私はその方をホールへ誘導し後で話を聞きますと伝え急ぎました。しかし入浴介助を終えてもその日はお話ができる余裕もなく、終わってしまいました。帰宅中、私はその方のことを考えていました。私が後で、と伝えたことは、すでに忘れておられるのかもしれないけれど、私の後悔の思いは消えませんでした。もっと寄り添った言葉を掛けられたのではないかと。時間が作れなかったのか。その後の実習中も、その方が気になっていました。

いつも不安そうな表情で、何かを探されているような目。私の服はまちがっていないか、身だしなみは正しか、いつも心配されていました。私はその都度、大丈夫ですよ。とその場凌ぎの返事しかできません。どうお答えすべきなのか頭の中

受賞者コメント

最優秀賞という素晴らしい賞を受賞できてとても嬉しいです。今後も、鹿児島城西高校で「福祉の心」を育み、障がい分野に特化した介護従事者になれるよう頑張ります！



左:芝野賢教諭、右:板木光輝さん

しみず ひめの
清水 媛乃さん(兵庫県立日高高等学校 3年)

でいつもぐるぐると考えていました。

実習も終わり頃に、その方のご家族との面会がありました。私はその時のその方の様子を見てとても驚きました。いつもとは全く違ったイキイキとしたお顔で、いつもはあまり動くことのない腕を上までピンとあげておられました。初めて見るそのご様子に見入ってしまい、その様なご様子を見せて頂いたことをとてもありがたく感じました。その方のそんなお顔も声のトーンも知らなかったためです。

いつもそんな風に過ごして頂けたら。と思いましたが、そうするためにはどうすべきなのかとなると、思い浮かびません。

あれ程嬉しそうにされていましたが、介護士は家族の代わりになれる訳ではありません。ですが、少しでも家族の様なになれるよう、努力することならできはずです。

ただ、実習では介護の楽しさだけでなく、その業務の大変さも知りました。少人数で多くの利用者の方へ対応をします。気持ちに寄り添い、側にしようと思いつつ次の業務があります。また、一人ひとりのニーズも状況も違います。そんな中では、どこかで折り合いをつけなくてはいけないのではないかと。そんな風に感じてしまいます。しかし、そんな風に思っても良いのでしょうか。あの方により良い生活を送って頂くにはどうすれば良いのか。

私は今、介護福祉士、さらに社会の中でのあり方、介護の環境、広い視野で自分がどこを目指すのかを含め、模索中です。

受賞者コメント

実習中は、利用者の方のよりよい支援を目指して模索した貴重な日々を過ごせました。この賞に恥じないよう、これからも福祉の知識と経験を深めながら成長していきます。



左:清水媛乃さん、右:森垣泰宏校長

URLをクリックまたはタップするとお申し込みページへ移動します

日本医療企画

“イチ”からわかる病院経営オンライン塾

第1回 アーカイブ受講可

病院経営を取り巻く環境を学ぶ

第2回 アーカイブ受講可

病院の外部環境分析を学ぶ

1. 外部環境データの解説
2. 外部環境分析の実践

第3回 アーカイブ受講可

病院の内部環境分析を学ぶ

1. 内部環境データの解説
2. 内部環境分析の実践

第4回 2025年2月19日(水)

病院経営戦略の策定と実行を学ぶ

1. 病院経営戦略の策定
2. 病院経営戦略の実行

第5回 2025年3月19日(水)

病院経営の改善手法を学ぶ

1. 医業収益を増やす
2. 医業費用を抑える

■時間:14:00~16:00(講義90分+ディスカッション)

■講師:古株靖久氏

(総務省 地方公共団体の経営・

財務マネジメント強化事業 病院事業・介護事業アドバイザー)

■開催方法:オンライン

■受講料:各回2,000円 ※税込

※オンデマンド配信あり

終了後のセミナーもアーカイブ受講が可能

応募はこちら▼

https://www.jmp.co.jp/seminar/kansai/online_hmjuku_2024_2025/

お問い合わせ

株式会社日本医療企画 関西支社
TEL:06-7660-1761



日本医療企画

新時代を生き抜くための 介護経営セミナー2025

プログラム

- ・第1部
今後の介護報酬改定を見据えた
介護保険施設等に併設する
住宅型サービスの経営的メリット
- ・第2部
実例に基づく
地域密着型サービスを併設する
住宅型サービスの経営戦略

個別相談/事前予約制

■日時・会場:

- 2025年2月1日(土) 郡山会場 14:00~16:30
2025年2月8日(土) 盛岡会場 14:00~16:30
2025年3月1日(土) 仙台会場 14:00~16:30 (オンライン視聴あり)

■講師:土井勝幸氏

(医療法人社団東北福祉会介護老人保健施設
せんだんの丘施設長)

■参加費:無料

応募はこちら▼

https://www.jmp.co.jp/seminar/tohoku/tohoku_misawa2025/

お問い合わせ

株式会社日本医療企画 東北支社
TEL:022-281-8536



保健・医療・福祉サービス研究会

2027年介護保険制度・報酬改革に向けた 介護事業戦略セミナー

介護保険制度・報酬改定の方向性と サバイバル時代の介護事業の新戦略

プログラム

- I. 見えてきた令和6年度介護報酬改定の検証
- II. 新時代の収益向上策を考える
- III. 氷河期を迎える人材確保策
- IV. 令和9年度改定の大膽予想

■日時:2025年3月14日(金) 13:00~17:00

■講師:小濱道博氏(小濱介護経営事務所 代表)

■開催方法:オンライン(生中継・ZOOMウェビナー) &
オンデマンド(再配信) & DVD & CD(選択可)

■参加料:一般26,400円、HMS会員(法人・個人会員)23,760円、
HMS会員(会報誌購読会員)25,080円、DVD追加14,300円、
CD追加9,900円 ※税込

※オンデマンド・DVD・CD受講の方は、参加料に加え、

編集・運用費等経費として、別途3,300円(税込)の負担あり

※「DVD受講」「CD受講」「DVD追加」「CD追加」の場合は送料
として1,210円(税込)の負担あり

■オンデマンド配信期間:2025年3月21日(金)9:00~4月4日(金)9:00

応募はこちら▼

<https://www.hms-seminar.com/seminar/?id=1730968225-007527&ca=&le=1305711919-874798&ar=>

お問い合わせ

保健・医療・福祉サービス研究会
TEL:03-6910-2870
Mail:info@hifsk.co.jp

